

再評価の概要

1 評価実施要領による検証事項

次の事項について分析・検討し、事業計画の妥当性を検証することとしている。

- 1) 事業採択後の事業をめぐる**社会経済情勢等の変化**（水需要の動向、水源水質変化等）
- 2) 採択後の**事業の進捗状況**（用地取得の見通し、工事工程、事業実施上の課題等）
- 3) **コスト縮減及び代替案立案等の可能性**（指針等に基づくコスト縮減策等）
- 4) **その他**（事業の投資効果分析）

2 主な検証結果

検証項目	検証内容	検証結果
社会情勢等の変化	水需要の動向等	給水量実績については、平成 20 年度で一日平均約 88 万 m ³ /日、一日最大約 103 万 m ³ /日であるが、今後、給水人口の増加等により、平成 36 年度にピークを迎え、一日平均約 97 万 m ³ /日、一日最大約 113 万 m ³ /日になると見込まれる。
	水源の取水可能量	確保水源量は、八ッ場ダム完成後約 124 万 m ³ /日となり、水需要のピークに対する供給が可能である。しかし、ダム完成後においても近年 20 年に 2 番目の渇水時における供給量は 106 万 m ³ /日となり、不足する。
	水源水質の変化	千葉県水道局の原水水質は、いずれも良好とはいえず、横ばいの状況であるが、八ッ場ダム完成により安定取水が可能となる江戸川水系は、比較的良好である。
	住民の要望等	安全で良質な水道水の安定供給への要望が強い。
事業の進捗状況	用地取得の見通し	地権者との用地補償に係る基準は全て妥結され、用地取得は約 78%である。（平成 20 年度末）
	工事工程と進捗状況	平成 27 年度工期に対し、事業費ベースで約 70%である。（平成 20 年度末）
	事業実施上の課題と事業者からの要望	課題としては、コスト縮減及び工期の厳守である。事業主体が国であるため、引き続き要望を行っていく。
コスト縮減及び代替案立案等の可能性	コスト縮減	平成 16 年度から設置している「八ッ場ダム建設事業のコスト管理等に関する連絡協議会」でコスト縮減の検討・協議を行っている。
	代替案の立案	地下水の利用、既存表流水源の活用・合理化、海水淡水化施設の可能性について検討した結果、いずれも不適切である。
その他	費用便益費の算定	マニュアルに基づき算定を行った結果、全体事業に対して 2.38、残事業に対して 9.26 となり、いずれも 1.0 を上回った。
	定量化できなかった効果	その他、江戸川水系は比較的原水水質が良好であるため、安定給水の確保や浄水処理の費用軽減が見込まれる。
対応方針	事業継続の是非	事業継続